

病院の 実力

～福島編 179

骨折治療

今回は骨折治療を取り上げる。手術が必要なケースに絞って調査し、一覧表には、2021年に実施した手術件数などを掲載した。

主な骨折手術は、救命のため緊急手術が求められたり、マヒなど深刻な後遺症が残ったりする「重度の骨折」と、高齢者の「脆弱性骨折」に分けられる。

重度の骨折は、骨盤や脊椎・脊髄のけがで起こるケースと、骨が皮膚を突き破り、むき出しになってしまう開放骨折を対象とした。

脆弱性骨折は、加齢で骨がもろくなる骨粗しょう症が原因だ。尻もちや、床に手をつくなど軽い衝撃でも折れてしまうのが特徴だ。

折れた部位によっては、ギプス固定などによる保存療法が中心となるが、「大腿骨近位部骨折」は原則、手術となる。寝たきりを防ぐには、けがから48時間以内の早期手術

早期手術で寝たきり防止

病院の実力「骨折治療」

医療機関別2021年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	主な骨折手術合計(件)	重度の骨折(件)	脆弱性骨折(件)	骨折	
				早期手術の割合(%)	二次骨折予防の割合(%)
福島					
竹田総合	273	49	224	38	—
星総合	173	15	158	56	0
県立医大津医療セ	59	10	49	79	4
県立医大	48	41	7	14	0
宮城					
中嶋	969	5	964	1	8
石巻赤十字	321	81	240	41	18
大崎市民	304	57	247	26	84
東北大	152	117	35	48	—
泉整形外科	126	2	124	5	0
栃木					
自治医大	153	111	42	56	1
宇都宮記念	141	4	137	1	0
新上三川	109	0	109	0	9
独協医大	109	51	58	0	0
国際医療福祉大	102	9	93	4	5
国際医療福祉大塩谷	71	2	69	0	31
県立がんセ	16	2	14	0	0

「セ」はセンター、「—」は無回答または不明

全国の調査結果は19日の「安心的设计面」に掲載しました。



白土修
病院長特別補佐

県立医大津医療センター

当センターでは、手術が必要な骨折なのかを的確に見極め、迅速に手術するよう心がけている。「けがから24時間

以内、遅くとも48時間以内」の手術を目標にしている。そして、手術後は、患者を寝たままにさせず、翌日からリハビリを始め、体の機能を低下させないようにしている。

骨折を放置すると、死亡リスクが上がることもおぼろげに知っている。歩かなくなることで、心機能が低下したり、肺炎になりやすくなったりして、死につながることもあるのだ。「たかが骨折、されど骨折」。骨折を見逃さずに、注意してほしい。

高齢者の場合は、治療をしても再び骨折する「二次骨折」が起こりうる。その予防のため、骨の状態に応じた薬物治療が充実しているからだ。

骨折を放置すると、死亡リスクが上がることもおぼろげに知っている。歩かなくなることで、心機能が低下したり、肺炎になりやすくなったりして、死につながることもあるのだ。「たかが骨折、されど骨折」。骨折を見逃さずに、注意してほしい。

とリハビリが望ましい。再度の骨折「二次骨折」の予防も重要だ。一覽表では、大腿骨近位部骨折の手術に占める早期手術の割合と、入院中から二次骨折予防の薬物治療を受けた患者数も示した。なお、脆弱性

骨折のうち、骨盤と背骨の骨折手術件数は重度の骨折に計上した。高齢化が進む中、二次骨折予防の重要性は増している。退院後も服薬は続け、転倒を防ぐための運動やバランスのよい食事を心がけたい。

骨折を放置すると、死亡リスクが上がることもおぼろげに知っている。歩かなくなることで、心機能が低下したり、肺炎になりやすくなったりして、死につながることもあるのだ。「たかが骨折、されど骨折」。骨折を見逃さずに、注意してほしい。

放置で死亡リスク上昇

骨折を放置すると、死亡リスクが上がることもおぼろげに知っている。歩かなくなることで、心機能が低下したり、肺炎になりやすくなったりして、死につながることもあるのだ。「たかが骨折、されど骨折」。骨折を見逃さずに、注意してほしい。

骨折を放置すると、死亡リスクが上がることもおぼろげに知っている。歩かなくなることで、心機能が低下したり、肺炎になりやすくなったりして、死につながることもあるのだ。「たかが骨折、されど骨折」。骨折を見逃さずに、注意してほしい。